

倶楽部 趣味

定年後は自分の窯で仲間と一緒にクラフトマンの夢を

(尾張西支部)

株式会社 ノリタケリサイクル
センター

代表取締役社長

瀬尾 博俊 さん



今回は「文化と出会い、森に憩う」ノリタケの森で、株式会社ノリタケリサイクルセンター（本社：名古屋市西区則武新町3丁目1番36号）代表取締役社長 瀬尾博俊氏にお話を伺いました。クリスマスを間近に控えたこの日は天気もよく、ノスタルジックな赤レンガの建造物、手入れされた庭、クリスマスの雰囲気盛り上げるディスプレイに誘われ多くの来場客が訪れていました。

仕事こそが趣味

(ノリタケの森を1周し、ほとんどの施設を拝見したあとに) 先ほ

どから施設を拝見しながらお話を伺っていると、陶磁器の歴史から、デザインに至るまで本当に詳しく、まさに仕事が趣味という印象を受けました。お仕事をなさる前から陶磁器に興味があったのですか？

瀬尾 いいえ。私は広島に生れ育ち、入社するまでは陶磁器のことをあまり知りませんでした。しかし、入社後、うちの製品はその頃海外

での人気が高く、7割が輸出されていると聞き、自信と誇りを持ちました。私自身は、工業用の砥石に関わる仕事をずっとしてきましたが、やはりノリタケの食器には深い愛着があります。

瀬尾さんは製品の製造過程やデザインの時代背景などを説明して下さる時、本当に楽しそうにお話しく下さるので、本当にお好きなんだということが伝わってきます。

瀬尾 量産品といえど、手作りの部分も多く、たくさんの工程を経て作られている陶磁器には愛着もありますし、技術者にも感謝の気持ちを持っています。私が入社し



た頃には、あの赤レンガの建物に2,000人の女性がずらっと並び作業をしていました。それは壮観な眺めでした。

先ほど拝見した製造工程では、陶磁器の特徴が本当によくわかりました。



時代を越えた美しさ

瀬尾 陶磁器は最初に粘土で作った時に比べ、焼きあがりは10%以上も小さくなります。それぞれのパーツに分けて焼いていきますから、そのバランスなども計算されているんです。窯の中での置く位置、型からはずすタイミングなどでも製品の質が変わってきます。

緻密な計算の上に作られているんですね。緻密と言えば、1つ1つのデザインも色も幅広く、素晴らしいですね。

瀬尾 そうですねえ、あのデザインも魅力の一つです。明治時代から大正時代にかけてつくられた食器でも、今の時代に使えるものがたくさんあります。デザインが色あせないんです。

それは拝見して実感しました。時代を感じさせないおしゃれなデザインのものが多くありました。使えそうというより、もったいなくて使えないくらい素敵な食器がたくさん並んでいました。1つ1つの食器に使っていた人々の生活が



目に浮かぶようです。

瀬尾 食器から感じられるその時代や生活というのは何かしら感慨深いものがあります。

それにあのボンチャイナの白色というのは、やや黄味かった温かい色なんですね。まるで触ったら柔らかく温かいのではと感じたほどでした。固いものとは思えないくらいの質感、エンジェルの羽根などは本当にやわらかそうでした（ノリタケの森クラフトコーナ



一では、製作過程を目の前で見ることができ(る)。まさに芸術ですね。

瀬尾 ボーンチャイナというのは牛の骨の灰を粘土に混ぜて作っています。それがああいった色を醸し出しているのです。

楽しんでいただけてよかったです。私は案内した方々に「楽しかった」「もう1度来たいわ」などと言ってもらえることが喜びの1つですから。

本当にもう1度ゆっくり伺って、お皿の絵付け体験(クラフトセンター2階ではお皿などの絵付け体験ができる/実費)などもしながら1日楽しみたいと思います。

瀬尾 是非お越しください。企画展示もありますから、何度足を運んでいただいても違ったものをご覧いただけると思いますよ。お帰りには是非ライフスタイルショップ、アウトレットショップに立ち寄っていただいて、ノリタケをご自宅でも堪能していただければさらにうれしいですね(笑)。

今日もたくさんの来場者がショップやギャラリーにいらっやいますね。

瀬尾 年間40万人の来場者があります。最近ではバスツアーのコー

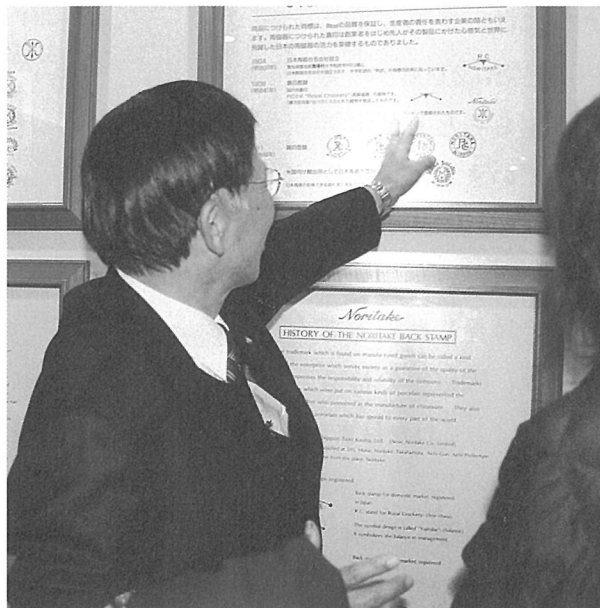
スにも入っていたり、学生が社会見学で訪れてくれたりと定着してきた感があります。

1ヶ所で学べて、楽しめて、癒されるというところはそんなに多くないですから、貴重な場所ですね。

瀬尾 ありがとうございます。

今日は陶磁器について大変勉強できた気がします。ありがとうございました。ところで瀬尾さんは陶磁器と共に毎日を過ごされていますが、ご自分で製作とかはされないんですか？

瀬尾 現在はもっぱら目で楽しみ、ご案内して楽しむといったところですが、定年後には何人かの仲間と製作に取り組みたいと思っています。自宅用の窯が今は20~



30万円くらいで買うことができます。製作の楽しみはもう少し温めておきます(笑)。

やはり定年後も陶磁器と共に過ごされるおつもりなんですね。今日お話を伺って、瀬尾さんにとって陶磁器は人生なんだと感じました。人の笑顔を大切になさっている瀬尾さんの作られる陶磁器は、きっとお人柄のように温かいものだと思います。その製作まで、もうしばらく趣味のお仕事がんばってください。